

美しく

はなやかな

外相の奥にある

舞妓のいのちと

いつたものを、

ぼくは描き

出そうとする

石



アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース
SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS No. 140
Spring 2019

◆石本正記念展示室 ◆ 2019年度
「石本正作品選1」より

「石本正作品選」では、青年時代から晩年に至るまでの画業の全貌を、展示作品を年四回に分けて入れ替えながら紹介します。収蔵作品の中から選び抜かれた名作の数々を、ぜひ会場でご覧下さい。

〔特集展示〕

現在の作品選では、石本芸術を象徴する「舞妓」シリーズに着目し、その変遷を紐解く特集展示コーナーを設けています。今回は、その特集展示から作品をご紹介します。

ぼくの描こうとしている舞妓は、いま目の前にいる彼女ではない。

『舞妓』と聞くと、純日本的なイメージと共にその姿を思い浮かべる人も多いでしょう。美しい着物やかんざし、白粉で化粧した真白い顔などの浮世離れした装飾美に、生きた人形という印象さえ抱いてしまうかもしれません。そのような舞妓をモチーフにして、多くの画家が作品の中でその姿を表現してきました。特に着物が日常着でなくなつていった近代においては、『舞妓』という特殊な世界で生きる女性を独特な視点でとらえたものが多くあります。

石本正も「舞妓をモチーフに数多くの作品を残した画家の一人でした。」
彼が舞妓を描き始めたのは一九五〇年代後半の頃。舞妓を描くようになつたきっかけとして、彼は「観心寺の如意輪観音とともに平泉中尊寺の一宇金輪坐像」に魅せられてから」という言葉を残して



①「横臥舞妓」1967(昭和42)年

います。一字金輪坐像は、顔に肉色の彩色をしており、それが画家に白粉を塗つた舞妓の肌を連想させたのでしよう。彼はその魅力を「日本のエロチズム」と表現しました。それまでの画家が誰も描いたことがなかつた「ヌードの舞妓」も、舞妓を通してそれら仏像から感じたえもいられない豊かさと、そこから生まれる神秘感を表現したのです。

まつすぐな姿勢によつて、他の誰にも直似することができない新たな『舞妓像』を戦後の美術界の中に誕生させました。やがてその事が高く評価され、一九七一年に第二十一回芸術選奨文部大臣賞（美術部門）、さらに、第三回日本芸術大賞の二つの賞を受賞することになりまし

一 横畠舞妓（岡版①）はその頃の又いドの舞妓像の代表作の一つです。

普段は着物で隠れている白粉と素肌の境界は、女としての色香を一層強く漂わせ、重量感さえ感じる身体の表現は、現実の女性を見るよりもリアルに血の通つた肉体を思わせます。

下地に使用した木炭やペステレによる

一
長い使用した後、ハサウエーは、
陰影を利用し、その上から日本画の絵の
具で彩色するという、それまでの伝統的
な日本画の描き方にはなかつた独自の技
法で、肌の質感が表現されています。

消えたヌードの舞妓

しかし、二つの賞を受賞したころを境にして、石本の舞妓作品の発表の様子に徐々に変化がみられるようになります。それまでは現在の創画会の母体団体である新制作協会展や、個展・グループ展などでも、ヌード・着衣に限らず舞妓作品が多くみられていましたが、一九七六年（昭和五十二）年に開催された個展をさいごに、世間に衝撃を与えた『ヌードの舞妓』がぱつたりと姿を消します。以降彼が描く人物画は『着物の舞妓』または

「舞妓ではない裸婦」へと変わりました。ただ、舞妓ではないはずの裸婦たちの顔にはなぜか舞妓と同じような白粉が残つており、非日常的な独特の雰囲気を醸し出す姿で表現されました。(図版②参考)この頃からの石本の裸婦像はこれまでにも増して一層自由で妖艶な雰囲気になつていて、彼が六十年代の頃には透き通るような美しい肌や神秘的な表情など、求め続けた女性美的表現が円熟期を迎えました。

一方で、着物を着た舞妓像のほとんどは図版③のような胸像または座像の小作品で、あくまで舞妓らしく華やかで美しい姿で描かれました。舞妓の向きや着物や帯の柄が違うなどの違いはあっても、どこか大人しい表現だったことはいなめません。ただし、このような舞妓像を約

②「午睡」1977（昭和52）年



◆企画展示室◆ 石本正 素描展「花をみつめて」

芥子・牡丹・薊

画家の心を虜にした花々



「牡丹」1988（昭和63）年

鳥や舞妓裸婦の作品で脚光を浴びていた石本が、本格的に花を題材とする大作を発表し始めたのは一九七〇年代、五十年を過ぎてからの事でした。新たな表現への挑戦のようでもありながら、女性美を見つめ続けた石本独特の目線で花の姿をとらえたそれらの作品は、花であるにもかかわらずどこか人間的な情感を漂わせるものとなっていました。

それらすべての作品は、花が与えてくれる感動の心を素直に描きとめた膨大な

数のスケッチが元となつて生まれました。風に揺れ、太陽の光にすける薄い花弁。今を盛りと咲く姿も枯れかけの様子もすべて受けとめ、花がさまざまに変化していく様子に女性の姿も重ねながらスケッチしていました。

この展覧会では、花が与えてくれるさまざまな感動を素直に描きとめた素描の数々を見る事が出来ます。花に囲まれながら描いていた画家の姿を思い浮かべながらご覧いただければ幸いです。

春になる
と、美しく咲く様々な花を
求めてあちこちに出かける
人も多いことでしょう。画家・石本正に
とつても春は忙しい季節
で、彼の心をとらえてやまない芥子や牡丹などの花をスケッチするため、毎日のように出かけていたといいます。

本展では、石本正が最期までアトリエで大切にしていた一万枚を超える未公開の素描を中心に厳選した『花』を展示しています。

最初に舞妓を描き始めたころから表現がさまざまに変化していつても、生涯の中で『舞妓』というテーマが途切れる事はありませんでした。石本正の画業において『舞妓』は、画家本人にとつても離れがたい特別なものだったに違いありません。

再び石本の作品に、舞妓をテーマとする大作が現れたのは一九九九（平成十二）年に制作された「湖畔」で、しかも、胸をあらわにしたヌードの舞妓でした。この作品が発表されたのは、ふるさとに石正美術館が開館したこと記念した展覧会「石正美術館開館記念 石本正展」で、二〇〇一（平成十三）年から二〇〇二（平成十四）年にかけて全国四会場を巡回するものでした。

美術館が出来て以降は、ほとんどの新作がここに収蔵されました。幼い頃に絵を描くための感性を育んでくれたふるさとが、心を込めて描く絵を受け止めてくれる。画家の心にそういう安心感が生まれたのか、二〇〇一年以降はそれまでにも増して年間の創作数が増えていきました。しかも五十号以上の大作がほとんどで、その中には舞妓像も時々現れるようになります。

晩年の頃の舞妓像の特徴的なところ



③「舞妓」1988（昭和63）年

十五年間で百点を超える数を描いており、裸婦像とはちがう、何か画家として割り切った創作姿勢を感じずにはいられません。

思い出の中の舞妓



「豊千代座像」2008（平成20）年

鳥や舞妓裸婦の作品で脚光を浴びていた石本が、本格的に花を題材とする大作を発表し始めたのは一九七〇年代、五十年を過ぎてからの事でした。新たな表現への挑戦のようでもありながら、女性美を見つめ続けた石本独特の目線で花の姿をとらえたそれらの作品は、花であるにもかかわらずどこか人間的な情感を漂わせるものとなっていました。

それらすべての作品は、花が与えてくれる感動の心を素直に描きとめた膨大な



展示室の様子

◆「石本正作品選1」（石本正記念展示室）
◆石本正 素描展「花をみつめて」（企画展示室）
【会期】六月二十三日（日）まで

石本正の書棚より① —青年時代—

二〇一五年に石本先生がお亡くなりになられた後、先生のご遺志とご遺族のご厚意により、当館に膨大な資料が寄贈されました。その中でも大部分を占めていたのが、書棚とそこに収められた書籍の数々でした。

大変な読書家でもいらっしゃった石本先生。高さ約三メートルもの書棚には、棚の前後にびっしりと本が並べられ、京都のアトリエはその重みで床が傾く程でした。

棚の寄贈に先がけて、二〇一六年に本の移送が行われたのですが、その数およそ段ボール百箱分！全部で三千九百冊近くありました。そしてこの年、その記録と整理のための人員を雇つてデータベース化を進めました。

題名や著者名はもちろん、海外の画集も多くあつたため、わかる範囲で出



画家愛用の書棚（一部）

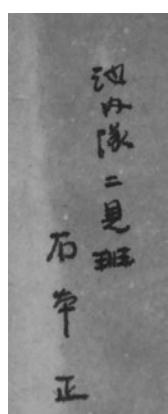


1.『ギリシャの瓶繪（瓶絵）』
一九四二（昭和十七）年
村田數之亮著／アルス発行

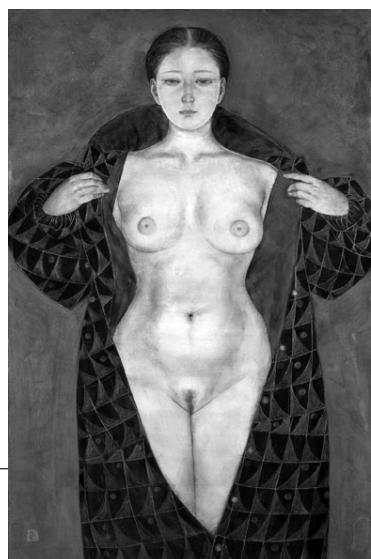
今回はその中から、書き込みなど石本先生の痕跡が残された本をご紹介します。画家が何に興味を持ち、またそれがどう制作に結びついてきたのか。書棚に残された本たちは、これまで知らなかつた石本先生の姿を伝えてくれました。

版国名も記録してもらいました。またリストを作る際、書き込みや紙が挟んであるページの番号、謹呈された本は誰から贈られたものなのか分かるようにしてもらいました。数ヶ月にわたつて沢山の本を一冊ずつ調べるのは大変な作業だったと思いますが、おかげで今は情報を検索する際にとても役立っています。

まず紹介するのは、一九四二年に発行された『ギリシャの瓶繪』です。繰り返し読まれたためでしょうか、表紙は擦れ、ページが外れかかっている箇所がありました。また、表紙を開いてすぐのところには次のような署名がありました。



石本正「エーゲ海追想」一九九六年



画家が京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）で学生時代を送つていた頃、日本はちょうど第二次世界大戦の真っ只中になりました。そしてこの本が出版された翌年にあたる一九四三年の冬、学徒動員によつて陸軍へと入隊。翌年秋に練り上げ卒業の措置がなされ、気象観測の任務にあたるために中国へ渡りました。

本書はおそらく兵役についていた頃に持つていたものと推測されます。本の中では古代ギリシャの様々な瓶が紹介され、あとがきには、ギリシャの瓶繪に関する書物が国内に少ないという現状が綴られていました。そのような状況下にあって、すでに石本先生はこの時から興味を持つておられたわけですが、この本を見つけた時、一九九六年に制作された「エーゲ海追想」（右下）が思い浮かびました。

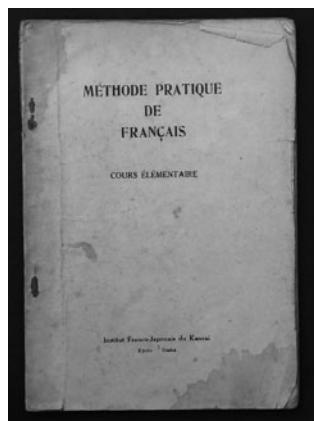
ギリシャの壺を思い出しながら女性に見立てて描いたという本作。「壺には耳があつて、その耳が手の部分になり、衣装のブルーがエーゲ海の色である」（石本正展 図録、朝日新聞社、一九九六）と語っています。

一九六四年に初めてイタリアを訪れて以降、当時教鞭をとつていた京都市立芸術大学の教え子らを伴つて、ヨーロッパ美術を巡る旅を何度も挙行された石本先生。この作品はそのうち、一九八三年にギリシャ・ユーゴスラビアの国々を巡る旅で出会つたギリシャの壺から着想を得たものと伺つています。

2.『フランス語実用教科書 初級講座』

一九四六（昭和二十一）年
関西日仏学館長マルセル・ロベール編

／財団法人日仏文化協会発行（非売品）

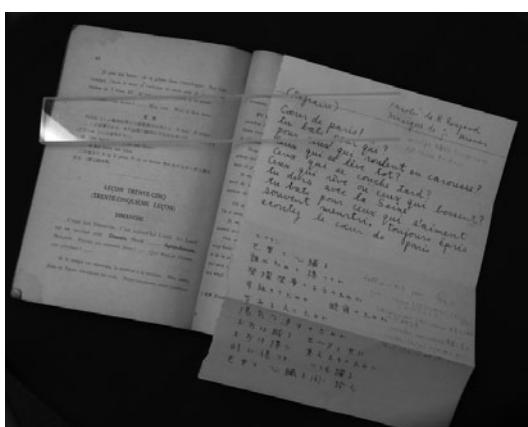


これまで、「画学生時代に関西日仏学館でデッサンを学んだ」ということは分かっていましたが、戦後もなくフランス語を習得するために通っていたことが新たに分かりました。中を見てみると、どのページも鉛筆の書き込みがしつかりとあり、ちぎったノートが挟んであるページもありました。

フランス語の習得についてご家族にお話をうかがうと、当時日本の若手作家を支援するために行われていた「サロン・ド・プランタン展」が関係しているのではないかとのことでした。

この展覧会は、駐日ベルギー大使夫人を中心とする在日欧米婦人らが主催したもので、戦後不自由な生活を送つ

こちらは終戦後、京都に戻ってきた石本先生が関西日仏学館（現アンスティチュ・フランセ関西／京都）でフランス語を勉強する際に使っていた教科書です。



参考文献 桑原規子（一〇一七）『山田智三郎と戦後の在日欧米人ネットワーク』

普通に生活するのも大変なこの時代、石本先生もヨーロッパに行くことを夢見てフランス語を習つておられたのでしょうか。そして一九五二年、石本先生の作品が本展で第一席賞に輝くのですが、残念ながら留学することは叶わなかつたそうです。なぜ留学できなかつたのかを含め、本展に関する詳細は今後の調査で判明次第お伝えしていきたいと思います。（学芸員 上田優里）

ていた日本の若い作家から作品を公募して展覧会を開き、優秀作品に賞を与える等の目的で行われました。年一回の公募展は一九四九年から開催され、受賞者の中にはアメリカやベルギーへの留学を果たした方もわずかながらいたようです。

塔天井画の公開について

900人の「描くよろこび」が 実を結んだ“天井画”



観覧ご希望の方は受付までお申し出ください
(要申込・観覧無料)

ヨーロッパ美術を巡る旅の中で、“地元の教会を地元の人たちが守り続ける姿”に感銘を受けた石本正。そんな彼の「地域に根差した文化こそが最も重要だ」との強い思いからこの天井画は生まれました。画家が描いた大麻山神社の藤棚の絵をもとに、浜田市内外の子どもから大人まで約900名の参加者が力を合わせて制作したこの絵は、人々の「描くよろこび」がつまつた当館の象徴的存在です。（2010年9月完成）



GWの石正美術館では、楽しいイベントや創作教室をご用意！
大人も子どもも一緒にあそびにきてね！



4/23~5/6は休まず開館！※5/7は休館



5/3
祝

こいのぼりのバッグを作ろう

13時30分～16時（制作時間約20分）

参加費：850円

講師：モードエモード静 定員：30名（予約優先）

ウロコを選んで、ステキなこいのぼりをデザインしよう！

バッグの土台に、ウロコを並べ、こいのぼりに仕立てます。小さいお子さんも参加できますよ♪

バッグのサイズは縦36cm、高さ37cm、奥行き11cm。約20分程でつくれます。



ゴールデンウィークのあとも！楽しい創作体験あります♪

5/11
土

「ティッシュケース」スイーツデコ

13時～15時 参加費：800円

講師：アトリエカラス 琴野和世さん 定員：15名（予約優先）

ポケットティッシュを入れられるアクリルケースを、軽量ねんどや樹脂ねんどで作ったスイーツなどを使ってかわいくデコレーションしましょう。クッキー、マカロン、フルーツ、お花やリボンもありますよ♪

手や服をよごす心配がなく小さなお子さんでもカンタンにできます。



4/28
日

コンサート「2Violins」

15時～16時（開場：14時30分）

入場無料

出演：中山ゆき子さん

世良優樹さん

桑野智子さん

バイオリン奏者の中山ゆき子さんと教え子の世良優樹さん、ピアノ伴奏に桑野智子さんを迎えたコンサートです。曲目は「5つの小品」「ハッサカリア」「カノン」など。クラシックの美しいハイモードをお楽しみください。



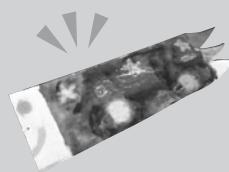
5/4
祝

石州和紙でこいのぼりをつくろう！

13時～15時 参加費：300円 定員：20名（予約優先）

石正美術館のゴールデンウィーク恒例！

味わいのある手すきの石州和紙で、自分だけのかわいいこいのぼりを作りましょう！



お申し込み・お問い合わせ 浜田市立 石正美術館 TEL 0855-32-4388

ギャラリー展示

大正 昭和 平成「三世代美術展」

5.11 土 → 5.23 木

9時～17時

（最終日15時まで）

月曜休館

大正・昭和・平成生まれの家族が、ちぎり絵・水彩画・油画・日本画・臨床美術など、それぞれの好きなジャンルで制作した作品の数々を展示。
令和元年を機に、「三世代美術展」を行います。



ギャラリー展示

「稻倉 寛 SL写真展」

4.27 土

→ 5.6 月・祝

9時～17時

会期中は全日開館

入場
無料

鹿足郡在住の稻倉 寛（ゆたか）さんが撮影したSLの写真展です。煙と蒸気を出しながら力強く走るSLの姿をお楽しみください。



SCHEDULE

石正美術館スケジュール

4

5

6

7

石本正記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
2019年度 石本正作品選1	石本正素描展 「花をみつめて」	3.26 火 ↓ 4.21 日 「石見の桜展」 【入場無料】	4.28 日 15時～16時 開場 14時30分 バイオリンコンサート 「2Violins」 
		4.27 土 ↓ 5.6 月・祝 「稻倉 寛 SL写真展」 【入場無料】	5.3 金・祝 13時30分～16時 こいのぼりのバッグを作ろう 講師：モードエモード静 参加費：850円 定員：30名（予約優先） 
		5.11 土 ↓ 5.23 木 大正 昭和 平成 「三世代美術展」 【入場無料】	5.4 土・祝 13時～15時 石州和紙でこいのぼりをつくろう 参加費：300円 定員：20名（予約優先） 
		5.25 土 ↓ 6.7 金 平成30年度 石正美術館 絵画教室作品展（前期） 「洋画教室」 「石本正絵画教室」 【入場無料】最終日 6.7は15時まで	5.11 土 13時～15時 「ティッシュケース」 スイーツデコ 講師：アトリエカラス 琴野和世さん 参加費：800円 定員：15名（予約優先） 
		6.8 土 ↓ 6.23 日 平成30年度 石正美術館 絵画教室作品展（後期） 「日本画教室」 「初めての日本画」 【入場無料】	6.8 土 6.9 日 第58回石本正絵画教室 「裸婦デッサン会」 参加費：7,500円 申込み受付開始：2019年5月11日（土）9:00～ 
		6.22 土 13時～15時 「土人形絵付け体験」 講師：土人形作家・福美さん 参加費：1,000円 定員：15名（要申込み） 	
		6.24 月 → 7.1 月 展示替休館	CLOSED
		7.2 火 ↓ 10.14 月・祝 描いた回石州和紙に 9 た 日 石 本 画 展 紙 に	<p>ギャラリー利用者&ミュージアムパフォーマー募集中！</p> <p>【ギャラリー利用者募集】 当館では作品展示の会場としてギャラリーの貸出をしています。絵画・写真・書道・立体作品・着物など、様々な作品の展示が可能です。</p> <p>利用料：1日 2,160円（税込み） ※利用料金は電気代・什器利用代など含む ※当館の展示スケジュールにより日数などの変更をお願いする場合があります</p> <p>【ミュージアムパフォーマー募集】 当館では「美術館が絵の好きな方ばかりでなく、いろんな人で賑わえばいいな」と考え、開館以来、毎週末にコンサートや創作活動を行ってきました。 当館創作室や中庭を発表の場として使ってみませんか？ 創作教室の講師をしてくださる方も大歓迎です！</p> <p>詳しくは石正美術館までお問い合わせ下さい！ TEL 0855-32-4388</p>
		7.20 土 ↓ 8.4 日 鐘築等 「の・のような似顔絵店5」 【入場無料】	7.20 土 14時～15時30分 講演・ワークショップ 「鐘築等 僕の似顔絵術」 講師：鐘築等さん 

2019年度
石本正作品選2

7.2 火
↓
10.14 月・祝



報活動

平成30年度
「サポーターの集い」



3月3日(日)に、平成30年度「サポーターの集い」を開催しました。当日は12名の方にご参加いただき、活動報告・意見交換ののち、ひな祭りの日らしい彩りのきれいなお弁当を皆さんで食べました。サポーターさん手作りのお漬物などもいただき、美味しい食事とともに色々と話が盛り上がったひとときでした。その後は展覧会や収蔵庫、石本正のアトリエなど、学芸員の解説を聞きながら見学していただきました。

来年2020年は石本正先生の生誕100年のです。当館ではこれまで、この記念すべき年に向けて色々と計画を進めてきました。

今年1年はその準備のためにとても大切な年でもあります。ひきつづき、サポーターの皆さんとの協力やご意見をいただきながら、よりよい美術館づくりをしていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします!

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合開館・翌平日休館)

展示替え期間

(令和元年6月24日(月)~7月1日(月))

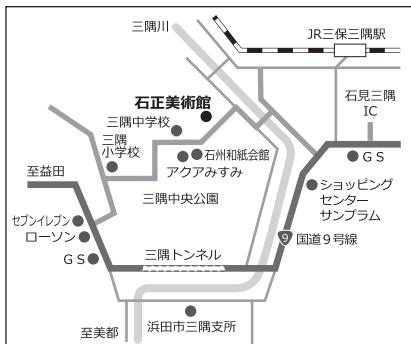
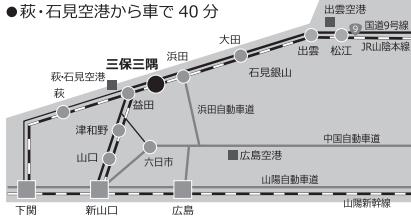
観覧料 展覧会によって異なります。

展覧会情報ページにてご確認ください。

※20名以上は団体料金。
※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。
※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICから車で20分
- 山陰道 石見三隅ICから車で3分
- 秋・石見空港から車で40分



石正美術館 ミュージアムニュース

アフロディア

No.140

Spring 2019

平成31(2019)年4月24日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589
TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389
Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

石正美術館

f 「浜田市立石正美術館」で検索



石正美術館
サポーター募集

活動を「楽しんで」いただける方、お待ちしています。

色々な人と
知り合いになれた!

活動を通して
心が豊かになる



展示室・ギャラリー チラシ発送

「ラベル貼り」「封入」
など簡単な作業です。
作業の候補日をメール等でお伝えします。



展示替え



「キャッシュオン付け」「額拭き」など軽作業もあります。特に「額拭き」は新しい展示を一番に観ることができます。でき、微細な絵具の粒子が見えるほど近づいて作業できる絶好のチャンスです!

美化活動

「草取り」から「植栽」まで幅広く行います。造園の専門家をお招きする回もあり、園芸の知識を深めることができます。作業のあとは、皆でお茶菓子タイム。されに自然と会話も弾みます♪



創作活動

週末のイベント
石正美術館まつり

- 外国語通訳・翻訳
- 手話
- ポスター掲示
- その他

どうか皆さん之力をお貸しください!



サポーター向けの勉強会、講習会を開催。芸術に関する様々なことを学んでいただけます。他の美術館での取組みを見学する楽しい研修旅行もあります! (今秋開催予定)

講習会・研修旅行